



ゆづりは

堺市立図書館だより

第20巻 第3号 (通巻76号)

発行日 令和7年12月10日

編集・発行 堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072(244)3811

FAX 072(244)3321

<https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/libcontents/search/?gid=1025>



▲電子版

「堺市こども読書活動推進計画 つながる・ひろがる 堺っ子読書活動」巡回パネル展実施中

子どもに「人生をより深く生きる力」を身につけてもらうため、令和7年2月に「堺市こども読書活動推進計画」を改定しました（詳しくは「ゆづりは」73号参照）。本年は改定1年目にあたり、広く市民の方に計画と取組を知っていただけるよう、巡回パネル展を実施しています。

本市では、家庭・地域・市立図書館・学校園等が連携し、乳幼児から中高生までそれぞれの子どもたちの発達段階に応じた読書支援を実施しています。例えば、子どもの読書においては大人の関わりが重要であることから、具体的な取組として子育てサークルにおける親子で楽しめる読み聞かせや、図書館での保護者向け講座を開催しています。この他、身近に本と触れ合える環境の整備として、地域の郵便局や商業施設に本を設置する「美原まちなか文庫」や、移動図書館「あおぞら号」による巡回などを行っています。

パネル展では、それぞれの取組の様子を紹介しています。近年子どもを取り巻く生活環境は大きく変化しており、必要となる柔軟な対応力、情報を見極める力、多様な人々と協働する力を育む上で読書は重要な役割を果たします。

巡回パネル展は令和7年11月1日～令和8年2月28日まで。お近くにお立ち寄りの際は、ぜひご覧になってください。

(中央図書館 こども室)



▲中央図書館での展示の様子

【巡回スケジュール】

期間	場所
令和7年	
11月1日（土）～11月9日（日）	北図書館
11月12日（水）～11月19日（水）	中央図書館
11月21日（金）～11月28日（金）	美原図書館
11月22日（土）	教育文化センター
12月2日（火）～12月5日（金）	東区役所
12月9日（火）～12月16日（火）	南図書館
12月23日（火）～12月26日（金）	堺市役所
令和8年	
1月5日（月）～1月8日（木）	美原区役所
1月13日（火）～1月20日（火）	西図書館
1月15日（木）～1月20日（火）	健康福祉
1月23日（金）～1月28日（水）	南区役所
2月3日（火）～2月10日（火）	東図書館
2月5日（木）～2月8日（日）	西区役所
2月12日（木）～2月17日（火）	中区役所
2月21日（土）～2月28日（土）	中図書館

巡回パネル展
について
詳しくはこちら



目次

- ・「堺市こども読書活動推進計画 つながる・ひろがる 堀っ子読書活動」巡回パネル展実施中
- ・この本で解決！
「音楽、天ぷら…言葉の歴史や語源を知る」
- ・×で情報を発信しています
- ・中央図書館で郷土資料展と記念講演会を開催しました
- ・司書のイチ押し
『葉っぱのフレディ いのちの旅』
- ・堺市立図書館電話番号一覧

ゆづりは とは ...

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて
譲り受けの
ゆづりあとに
また新しく



この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。

バックナンバーは
こちらから▶





音楽、天ぷら…言葉の歴史や語源を知る

図書館に寄せられた様々な質問と回答を紹介します



『日本国語大辞典 第2版』
小学館国語辞典編集部／編集
小学館 2000

知っている言葉でも、ふと語源などが気になることってありますよね。そんなご質問をたくさんいただきます。

日本語の言葉を調べる国語辞典は数々ありますが、中でも『日本国語大辞典 第2版』(2000～2002 小学館、初版は1972～1976)は、日本最大の国語辞典。「日国(ニッコク)」の愛称で親しまれています。棚までご案内すると、巻数の多さ(全13巻)にびっくりされることも。古語を含む50万語という収録語数の多さもさることながら、意味と使用例を時代順に記載している点が大きな特徴です。言葉の歴史や語源に関するご質問があると、まずは日国にあたります。そこから専門的な辞典、専門書や研究書等に範囲を広げることもあります。今回は日国を使ったレファレンス事例をご紹介します。

Q 「音楽」という言葉はいつから使われているのか

A 『続日本紀』に使用例あり。天平勝宝四年であることから、日本では8世紀頃には使用

されていたと考えられる。さらに『大漢和辞典』を見ると、四書五経『礼記』における用例がみられる。

Q 「天ぷら」の語源を知りたい

A 諸説あり。(1)調理の意のポルトガル語 temporo(2)山東京伝が命名(3)油を天麩羅と書いた(4)天上の日の意のスペイン・イタリア語 tempora

Q 武田信玄の「風林火山」の意味と出典は

A 「疾如風、徐如林、侵掠如火、不動如山」の略。そこから『大漢和辞典』の「侵掠」の項を見ると、『孫子』軍争篇が出典とある。

Q 「将来の夢」などの「夢」の用法は、キング牧師の演説の影響と聞いたが本当か

A その用法の例として日本では木下赳太郎の『常長』を最初の例として挙げている。同作品の発表は1914年、キング牧師の演説は1963年であるため、演説の影響とはいえない。

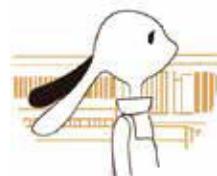
この『日本国語大辞典』、ついに第3版の編集が始まりました。完成はデジタル版が2032年、書籍版は2034年が予定されています。楽しみですね。(堺市駅前分館 レファレンス担当)

Xで情報を発信しています

堺市立図書館公式Xアカウントで、日々様々な図書館情報を発信しています。

- 各館のおはなし会、ブックフェア等イベント情報
- 図書館にもうすぐ入る本の紹介、電子書籍の新着情報などの資料情報
- 開館・休館の案内など…

まだフォローされていない方は、ぜひフォローをお願いします。(中央図書館 企画情報係)



▲堺市立図書館
Xアカウント

中央図書館で郷土資料展と記念講演会を開催しました

郷土資料展「昭和の堺市」

令和7（2025）年は、昭和元（1926）年から数えて100年目、また、戦後80年の節目の年に当たります。これを記念し、昭和時代の堺市を振り返る郷土資料展「昭和の堺市」を、令和7年11月1日（土）～24日（月・休日）、中央図書館1階ロビーにて開催しました。展示ではいくつかのトピックごとに、中央図書館の所蔵資料をパネルとともに紹介しました。

はじめに昭和のはじまりとして、大正天皇の崩御を取り上げました。堺市役所による当時の事務記録『大喪日誌 大正拾五年十二月二十五日』とともに、ちょうど編纂中であった『堺市史』のために撮影された写真群「堺市史史料写真編」の中から、当時の風景写真を展示しました。



「空襲」関連資料の展示

次に紹介したのは、戦時の堺です。出兵した堺市民への慰問記録『堺市北支産業視察団記録写真帳』や慰問雑誌『銃後の堺』、建物疎開前の堺の街並みを記録した絵『堺市第一次疎開地区記録』等を展示しました。

そして、戦後の復興について、記念誌『復興のあゆみ』や、復興の中で失われる石造物を調査した『全盛期の堺』等を展示、戦後の堺のトピックとして、臨海工業地帯の造成、泉北ニュータウンの開発、昭和の大合併に関連する資料も取り上げました。

最後に、奇しくも昭和の最終年である昭和64年の出来事となった、堺市制100周年について、記念誌の『フェニックス堺』や『閉幕式・新市庁舎見学会の栄』、『堺市制百年史』等を展示しました。

記念講演会「戦時下の堺と建物疎開 ～『堺市第一次疎開地区記録』はなぜ作成されたのか～」



記念講演会の様子

11月23日（日）には、同志社大学文学部文化史学科准教授の川口朋子先生を講師としてお招きし、中央図書館1階集会室で記念講演会「戦時下の堺と建物疎開～『堺市第一次疎開地区記録』はなぜ作成されたのか～」を開催しました。川口先生は建物疎開について研究されており、『建物疎開と都市防空 「非戦災都市」京都の戦中・戦後』（京都大学学術出版、2014年）等の著作があります。

講演会では全国的な建物疎開の状況から大阪の建物疎開についてお話をいただきました。この講演会のために、郷土資料展で展示した『堺市第一次疎開地区記録』についても調査していただき、当時の堺の町並みを記録している一方で、特殊な戦争記録画としての側面もあるとの考えを述べられました。

講演会後の質疑応答も活発で、参加者からのアンケートでは「堺の疎開地記録の特性、他市との比較でよくわかりました」「建物の取り壊し方法や絵図を見ることができよくわかりました」など大好評。貴重な講演に対する先生への感謝のコメントも多く寄せられました。（中央図書館 地域資料担当）



司書のイチ押し



『葉っぱのフレディ いのちの旅』 レオ・バスカーリア／作 童話屋



『葉っぱのフレディ
いのちの旅』
レオ・バスカーリア／作
童話屋 1998

主人公フレディは、太い枝に生まれた葉っぱです。春に誕生して、夏にはもう立派な体に成長していました。葉っぱの友達は周りにいっぱいいるし、親友のダニエルはたくさんのこと教えてくれるし、風通しも日当たりも申し分ない。フレディはうれしい気持ちでいっぱいでした。やがて紅葉を迎え、同じ緑色だった葉っぱたちは様々な色に変身しました。同じ枝にいても陽の当たり方などの経験が違うから、みんな違う色に変わることになります。物知りのダニエルはフレディに、そう教えてくれたのです。風が一気に冷たくなったのは、そのあとでした——。

「この絵本を自分の力で「考える」ことを始めた子どもたちと子どもの心をもった大人たちに贈ります。」大人になって久しぶりに『葉っぱのフレディ いのちの旅』を開いた時に、目に留まったのが日本語版編集者からのメッセージでした。「この本はアメリカの著名な哲学者 レオ・バスカーリア博士が書いた 生涯でただ一冊の絵本です。」子どもの頃に何度も読んだ絵本ですが、ルビの振られていないこの文章は、自分にとって新鮮でした。そして、日本語版が出た時、作者は既にこの世にいないことを知りました。

せっかくなので原著を読みたくなり、取り寄せてみると、細かい表現が『いのちの旅』と違っていることに気づきました。特に印象的だったのが、死という言葉が最初にダニエルから

出てきたという点です。急な強風に怯える葉っぱたちが、冬の到来と彼らの“今後”について知る場面があります。『いのちの旅』では、フレディに指摘されるまで「引っこし」をする時が来たとダニエルは言い続けます。一方原著では “It's the time for leaves to change their home. Some people call it to die” とはっきり言っています。ダニエルは、フレディたちと同時期に生まれたはずなのに、周りの環境と彼ら自身についてあまりにも詳しい、不思議な存在です。彼は神とも作者とも考えられますが、死を淡々と明言する原著では、やはりどこか超越していると感じました。それでも、フレディにかける言葉はいつもやさしく、「この木も死ぬの？」という問い合わせに対して、力強い答えをくれるので。自分がいなくなることへの恐怖や、死んだあとはどうなるのかという不安はあるけれど、当たり前に生きて、当たり前に最期を迎える。いのちが巡ることの尊さについて、ダニエルはフレディを通して読者にも語りかけてくれます。

『いのちの旅』では日本語やイラストの美しさに魅了されました。原著はバスカーリア博士のありのままの言葉が心に沁みるようでした。原著に忠実な日本語訳版『フレディ 小さないのちの物語』もありますので、『いのちの旅』が好きな方こそぜひ読み比べていただきたいと思います。(S・O)

【参考】

- 『The fall of Freddie the leaf A story of life for all ages』 Leo Buscaglia /著 C.B. Slack 1982
- 『フレディ 小さないのちの物語』
レオ・バスカーリア／著 講談社 1985

中央図書館	244-3811	西図書館	271-2032
移動図書館	244-3811	南図書館	294-0123
堺市駅前分館	222-0140	梅分館	296-0025
中図書館	270-8140	美木多分館	296-2111
東百舌鳥分館	234-9600	北図書館	258-6850
東図書館	235-1345	美原図書館	369-1166
初芝分館	286-0071		

☎ 堺市立図書館電話番号一覧 ☎

人権ふれあいセンター	触松人権歴史館
人権資料・図書室	245-2534
青少年センター図書室	228-6331
図書館カウンター堺東	232-1011



▲図書館 HP

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>